

養七亦良好ナラス以上ノ如キ非衛生的感作
將又任地到着後ノ氣候風土ノ激變等ノ惡條
件ハ次第ニ身體ノ抵抗力ヲ減弱シ遂ニ本病
ヲ誘發セルモノニシテ之真ニ公務ニ起因セ
シモノト認ム

右證明ス

昭和十九年十月十日

第六十二師團獨立步兵第三大隊長 陸軍中佐 磯崎 璣

第六十二師團獨立步兵第三大隊附 陸軍軍醫中尉 田口 彰

病歴書

本籍地
現住所

第六十二師團獨立步兵第三大隊步兵中隊
昭和十八年徵集 陸軍上等兵 伊藤 勇

- 一病名 慢性腸炎兼脚氣
- 二發病年月日 昭和十九年六月二十日
- 三發病場所 中華民國山東省沂城
- 四原因 別紙事實證明書記載如シ
- 五經過 過

本症昭和十九年六月二十日頃ヨリ水様下痢便日數行ヲ訴ヘ身體衰弱徴アリカ南西諸
島ノ轉進ニ際シ大航海中船艙内ノ狹雜灼熱等惡條件アリテ体力更減弱シ八月
二十日那霸上陸後受診以來疎治ヲ加ヘ却本却ニ於テ保育訓練ヲ實施シ銳意体
力氣力恢復ヲ圖リタルモ迄未決癒矣近時體重漸減シ栄養不良ニテ三六九疔ナリ

体温急度脈搏七〇至整實アリ麻痺春明ニテ顔貌稍々憔悴シ顔色蒼白味ヲ

帯ニ古ク清淨ニシテ可視粘膜ニ異常ナシ心界心音清澄ニシテ第二肺動脈音亢進ス

数行ニシテ全身倦怠若明ナルヨリ味治ニ適スト認メ十一月十日午後三時五分臨時入院ス

入院時ニ左記所見アリ体格小栄養不良ナリ顔貌憔悴ナリ顔色蒼白ニシテ元氣ナク舌ハ

清淨ナリ胸部ニ第二肺動脈音亢進セル外著変ナシ腹部異常ナシ膝蓋腱反射減弱

シ肺腸筋握痛アリ依テビタミンB剤及健胃消化剤ヲ與ヘ粥食特別食等ヲ與ヘ經

過ヲ觀察セリ十一月十六日前記症状及ビ經過アリ慢性腸炎兼脚氣ト病名決定セリ

十一月二十日頃ヨリ水様下痢四行ト依テ止痢剤ヲ投與ス十一月五日ニハ下痢三行ニシテ

止ラズ全身益々衰弱シ兆アルヨリリンゲル及チキタミンノ皮下注射ヲ行フ十一月九日ニハ

体重三五六斤ナル十一月十日頃ヨリ三度位ノ發熱アリタルモ十一月二十日ヨリ平温平脈ト

ナレリ第二肺動脈音亢進セル以外何等瘵狀ナシ下痢ハ依然水様ニシテ六行程度ナリ

十一月二十日頃ヨリ下痢十行程度トナル舌ノ乳頭ハ萎縮シテ依テ強心剤ノ毎六時間注射

行テト共ニ高張糖液ノ靜注ヲ行ハム十一月八日以来夜間寒 氣嚴シクシテ為カ型ナリ顔

貌蒼白色ニシテ舌灰白色ニシテ舌乳頭萎縮アリ胸部呼吸音微弱ナリ心音微弱トナリ殆ト

聴取シ得ズ脈搏細小ニシテ重複性ニ觸ル依テ十一時第一報ヲ發セリ十一月二十日頃ヨリ水

様下痢七行トナリ脈搏整ニシテ細ク緊張良好ナラス胸部呼吸音異常トナル胸部扁

平ニシテ肋間陥凹ニテ聴取困難ヲ來セリ十一月十四日ニ至リ下痢水様ナルモ一日三行トナル

顔貌削瘦シ栄養春シク衰退シテ顔貌蒼白ニシテ元氣ニシテ脈搏微弱ニシテ良好

ナシ又胸部所見前日同シ十一月十六日栄養衰退益々春明トナル顔貌老人様ニシテ削瘦

著明ナリ脈搏細小ニシテ緊張良好ナラス腹壁ハ舟狀ニ陥凹シマリ圧痛ナシ足背ニ浮腫ヲ認

メテ漸ク水様便ヲ行アリ依然健胃消化ニ劑劑ヲ與ヘルト共ニリンゲル液ノ皮下注射高張糖

液ノ靜注ヲシタシ朝夕二回皮下注射並ニカナル液ノ毎三時間注射ヲ續行シマリ

十一月十八日体温脈搏ハ饑餓狀アリ平温平脈ニ近シナリ十一月五日六時應答ハ消失ス高

張糖液ノ靜脈注射強心剤皮下注射ヲ行セタルモ八時ニ至リ脈搏ハ注射後ニ於テ觸知シ得ルニ

至ル兩眼瞬下垂狀ニシテ舌月形ヲ示シ兩眼上鼠ノ瞳孔ハ殆ト放大シテ口ハ開口狀ニシテ上

齒列ノ白屑ノ間ニ空見ヌ胸部ニ於テハ呼吸音微弱ニシテ心音亦幽ナリ病危篤ナルニシテ

本日八時第一報ヲ發スルニ至リ十一月二十五日午後靜注ヲ行ント共ニカナル液ノ下痢ニ毎

二〇分皮下注射高張糖液ニシテ、煙ノ靜注リシガル液五〇〇リ煙靜脈點滴注
 射ヲ行フ前記注射ノ行フモ十三時三十分ニ至リ「ニシスト」ク型呼吸ニ移リヒツカン
 三〇分連續注射並ニアトキリンシロク煙ノ皮注モ其効ナク十三時三十分腫孔
 散大ニ心搏動善呼吸者停止シ死セズ依ツテ十三時三十分第三報ヲ發ス
 大正七年月日 昭和十九年十二月三十一日
 死ニ亡場所 沖繩縣中頭郡中城村字津霸
 第六十二師團野戰病院

右ノ通ニ候也
 昭和十九年十一月五日
 第六十二師團野戰病院附 高木 聖博

本籍地
 現住所



第六十二師團獨立步兵第二十二大隊步兵砲中隊
 昭和十八年徵集 陸軍一等兵 伊藤 勇

一病名 慢性腸炎兼脚氣

一決定年月日 昭和十九年十一月十六日

一公務起因之由 本病ハ別紙所屬部隊長調製事實證明書ノ勤務ニ由リ發病トモト認ム

右證明又

昭和十九年十一月十六日

第六十二師團野戰病院院長陸軍醫少佐熊倉 寛



二、分肉下注射 高張糖液... 靜注... 呼吸... 瞳孔...
 射行ノ前記注射行ハ十三時二十分ニ至リ「シ」ニスト「ク」型呼吸ニ移リ「ヒ」クカ
 「ア」ノ連續注射並ニ「ア」ト「リ」ノ六種ノ皮注モ其効ナク十三時三十分瞳孔
 散大、呼吸動止、呼吸音停止ニ死ス。候ニテ十三時三十分第三報ヲ發ス。
 六死年月日 昭和十九年六月二十日 木聖博
 六死亡場所 沖繩縣中頭郡中城村津霸

右ノ通ニ候也

昭和十九年六月二十日 木聖博
 昭和十九年六月二十日 木聖博
 昭和十九年六月二十日 木聖博

昭和十九年六月二十日 木聖博
 昭和十九年六月二十日 木聖博
 昭和十九年六月二十日 木聖博

死亡診斷書

一氏名 伊藤 勇
 二男女別 男

三出生年月日 大正十二年十月二十五日

四職業 第六十二師團獨立步兵第三大隊步兵砲中隊
 陸軍上等兵

五病死自殺其他 戰病死
 妻死中毒ノ別

六病名 慢性腸炎兼脚氣(戰病)

七發病年月日 昭和十九年六月二十日

八死亡年月日時 昭和十九年十二月三日午後一時三十分

九死亡場所 沖繩縣中頭郡中城村津霸第六十二師團野戰病院

右證明候也

昭和十九年十二月三日 熊倉 寛

第六十二師團野戰病院陸軍軍醫少佐 熊倉 寛

第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 磯崎 勇

昭和十九年十二月二十日

法 齋 野 勇

一、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

二、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

三、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

四、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

五、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

六、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

七、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

八、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

九、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

十、昭和十九年十一月二十日 第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 齋野勇

請給與金證明書

本籍地

現住所

第六十二師團獨立步兵第二十二大隊 步兵砲中隊

故陸軍 上等兵 伊藤 勇

右者對スル昭和十七年一月三十日陸軍省告示第二號
大東亞戰役ニ係ル死没者特別賜金賜與規定第二
條第二項ノ請給與金ハ支給ニアラザルコトヲ證明ス
昭和十九年十二月二十日

獨立步兵第二十二大隊長 磯崎



付	部	任	王	官副級高	文課教	文國師
不付						

49

		專賞(理)	病右及左	死亡	諸給與金	所屬部隊	三別言	氏名
	五	志証書	証明書	証書	証明書	伊予第三大隊	戰死	鈴木久米男
	四				二同		陸上	三瓶安雄
	四							
	五							

石師副人恩第九號
 恩賞關係書類送付件通牒
 昭和二十年三月三日 第六十二師團司令部
 福島聯隊區司令部 御中
 左記者ニ對スル首題件別紙通送付ス

三記

奉命三師團區長(佐)高橋新一 師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 昭和二十年三月三日
 第一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第二十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第三十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第四十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第五十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第六十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第七十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第八十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十一師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十二師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十三師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十四師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十五師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十六師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十七師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十八師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第九十九師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣
 第一百師團長(佐) 藤原 忠 爲 宣

自昭和十九年八月二十日
至昭和十九年十月九日

沖繩本島防衛並作戰準備

昭和十九年十月十日

南西空襲

自昭和十九年十月十一日
至昭和十九年十二月三日

沖繩本島防衛並作戰準備

一發病年月日

昭和十九年七月十日

一發病場所

中華民國河南省鄭縣十八里河

一病名

一發病狀況

右、基本教育終了後部隊主力ニ追及中昭和十九年七月十日河南省鄭縣十八里河ニ於テ發病當時下痢食思不振全身倦怠衰弱等ヲ覺見エシモ介意セズ強行軍ニ次グ強行軍ヲ以テ七月二十日部隊主力ニ到着直ニ受診療養ニ勉メアリタルモ引續キ南西諸島へ轉進ニ伴ヒ完全ナル治療ヲ受ルル能ハズ沖繩本島上陸後直ニ入室セシメ隊治ヲ施セルモ輕快ニ徵サズ隊治ニ適セズト認メ十一月四日送院ス
本症誘發ノ原因ヲ探究スルニ本人ハ生來健ニシテ著患ヲ識ラズ又血族的ニ遺傳性疾患ヲ認メズ度友入隊以來繁劇ル基本教育訓練ニ精勵シ來リシガ

三月末旬部隊主力ハ京漢作戰ニ出動セシタメ初年兵教育隊ハ殘置部隊トシテ山西省路安榆次冷城ニ轉マトシテ教育ノ傍ラ該地區ノ警備ニ任ジアリシ爲兵疲勞困憊ハ想像ニ餘リアリタリ加フルニ臨時兵舎ハ支那家屋ヲ改造シタルモノニシテ換氣採光不良ニシテ一人占有氣容モ最小ニ限ラレ兵室ハ土間ニ薄キアンペラヲ敷キタル程度ニシテ極メテ非衛生的ナリ就中冷城ニ於テハ水質亦不良給養休養ノ暇ナク過劇ナル演習警備等體力ノ消耗甚ダシク身體ノ疲勞加重シ下痢患著續出セル現況ニアリタリ 次デ六月二十七日部隊主力追及命令下ルマテ天下酷熱ヲ冒シテ連日強行軍ヲ以テ七月二十日本隊ニ到着更ニ完全ニ療養ノ遑ナク引續キ南西諸島ニ轉進其間列車船船輸送ニ於テハ列車船船内狹隘穢雜ノ酷熱殊ニ船船内ノ收容人員ハ疊ニ疊ニ對シテ名餘リニシテ脚ノ伸長ハ勿論採光換氣極メテ不良ニシテ然モ對敵警戒ノ夕メ甲板上ニ出ズルヲ許サザル情況ニアリタル等非衛生的惡心條件累積シ遂ニ本病ヲ誘發セルモノニシテ此具ニ公認ニ起因セルモノト認ム

右證明ス

昭和十九年十二月四日